

スーホの白い馬がもっとわかる！ モンゴルと草原の暮らしを知る オンラインワークショップ



主な対象 小学校2年生以上
対象人数 制限なし
所要時間 45～60分

このワークショップのねらい

①スーホが暮らしたモンゴルって どんなところ？

モンゴルの地理・気候等の基本的な知識をクイズを交えて紹介します。現在のモンゴルは、人口の大多数が都市に暮らし、遊牧生活を継続している人々は少数となっています。「モンゴル＝遊牧」という画一的なイメージを避けるため、多様な側面の一つとして、多くの人が暮らす街の暮らしについて、留学生の経験等をもとに紹介します。その後、物語の舞台となった草原の暮らしに話を進めます。



②草原でどうやって生きていく？

物語で白い馬は、大切な家畜である羊を狼から守ります。その馬をスーホは愛馬とし、王はこれを奪おうとします。こうした物語を振り返り、草原の人々が多くの家畜と暮らしていることに着目します。

モンゴルでは、馬や羊以外にも牛や山羊、ラクダなどの動物が家畜として飼育されています。草原で生活をする上で必要不可欠な糧としての家畜とその利用方法について、馬頭琴やシャガイ（右写真）等の実物資料を活かしたクイズを交えて紹介します。遊牧生活における家畜の意義をより深く知ること、登場人物の行動や心情の理解が深まるでしょう。



③草原で暮らす知恵

家畜を糧とする遊牧生活について、さらにもう一步踏み込んで紹介します。遊牧生活では、「ゲル」という組み立て可能な住居に暮らし、年に数回家畜を連れて移動します。なぜ、数多くの家畜を連れて移動するのでしょうか。それは、草原の環境資源を持続的に利用するための生きる術であり、他にも厳しい自然環境に対応した知恵や新たな技術も取り入れて営まれています。私たちとは異なる自然環境とそれに応じた多様な暮らしがあることを理解できるでしょう。



④振り返り

ワークショップで紹介した内容を紹介した資料等とともに振り返ります。さらに物語と関連づけながら問いかけを交えて確認していきます。

①草原の暮らしを知ることで

物語のより深い理解を助ける。

「スーホの白い馬」は日本には見られない自然環境に、家畜を利用することで適応したモンゴルの草原における暮らしを舞台としています。物語の背景となる環境や文化をモンゴルの実物資料等を活用し、対話を重ねながら紹介することでより深い理解を促します。

②物語を通じて多様性を学ぶ

モンゴルの草原を舞台にした「スーホの白い馬」を読み込むことは、異文化との出会いでもありません。物語とともに、その背景も視野に入れることで、地球環境や文化が多様であることを認識する機会にもなるでしょう。

このワークショップで使用する実物資料

①馬頭琴



カメラを自在に動かすことで実物を手にする時以上に、近い距離で細部を観察します。

②ゲルの模型



伝統的な家具を備えたゲルの模型です。仕組みや内部の様子を観察します。

③シャガイ



羊のくるぶしの骨です。数多く集めることで、おはじきやすごろくのようなさまざまな遊びや占いなどに使うことができます。